
「早産児の母子愛着形成に対するハイフローネーザルカニューラ療法とネーザル CPAP 療法の影響：後方視的検討」に関するお知らせ

このたび、当院 NICU で診察を行った患者さんの検査データおよび診療記録等を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

1. 研究の対象となる方

2015年4月1日から2018年9月30日の期間に埼玉医科大学総合医療センター小児科NICUに入院し、ハイフローネーザルカニューラ療法もしくはネーザル CPAP 療法を実施した患者さんを対象としております。

2. 研究の目的

早産児はその未熟性のため、出生後、新生児呼吸窮迫症候群や未熟児無呼吸発作のために人工呼吸管理を必要とします。人工呼吸管理後、抜管後の呼吸療法として、ハイフローネーザルカニューラ療法またはネーザル CPAP 療法が選択されることが多く、両者の呼吸器予後に対する有用性の評価が各国で行われています。一般にハイフローネーザルカニューラ療法はネーザル CPAP 療法と比較して、母子間の接触が増え、母子の愛着形成にプラスに働くとされていますが、それを客観的に証明した報告はありません。そこで、本研究では、両療法の母子間の接触および愛着形成に対する影響の違いについて後方視的に検討します。本研究結果が、早産児の抜管後の呼吸療法選択の一助となり、児の健やかな成長と発育に貢献する可能性があります。

3. 研究期間

病院長の許可後～2026年12月31日

4. 利用または提供の開始予定日

2024年10月01日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

1. 試料・情報の内容

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究責任者である難波文彦が、管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配は

ありません。

2. 情報の取得方法

当センターで出生し NICU に入院中の在胎期間 34 週未満の患者さんおよび抜管時期が修正 36 週未満の患者さんの検査データおよび診療記録等を用います。

3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学総合医療センター 小児科 難波 文彦（研究責任者）

4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学総合医療センター 病院長 別宮 好文

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学総合医療センター 小児科 難波 文彦

住所：〒350-8550 埼玉県川越市鴨田 1981 番地

電話：049-228-3727（土日祝日を除く 8：30～17：30）

メールアドレス：nambaf@saitama-med.ac.jp

○研究課題名：早産児の母子愛着形成に対するハイフローネーザルカニューラ療法とネーザル CPAP 療法の影響：後方視的検討（High flow nasal cannula versus NCPAP, mother-infant attachment in preterm infants: a retrospective study）

○研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター 小児科 難波 文彦